

編集後記

酪農・乳業には、関連する多様な技術と理論がありますが、いずれも社会の変化に呼応して進歩してきました。それにより新しい概念や観点が提唱され、時には大きく根本から変わることもあります。特に最近では社会の変化のスピードが速く、それに伴って酪農・乳業においても社会的な課題、要請が大きく変化し、多様化してきたように感じられます。近年その重要性が急速に増している社会的課題の一つは地球温暖化の抑制であり、産業や生活など人間の活動全てにおいて二酸化炭素に代表される温室効果ガスの排出量を減らすための技術やシステムの開発が強く求められています。一方、少子化・高齢化が進む近代社会においては、食品や食生活習慣による健康の維持・増進、特に乳幼児や高齢者においては、疾患の予防までも可能にするような理論構築と関連する技術の開発が、もう一つの重要課題となっています。

前回に続いて第72巻でも、このような社会的課題の解決に向けた酪農・乳業分野における研究や技術開発の動向を4人の専門家の方々にご執筆いただきました。農研機構畜産研究部門の寺田氏には酪農における乳牛からのメタンガス排出抑制に加えて産業、経営体からのメタン排出量の低減についてもご紹介いただきました。また、同食品研究部門の植村氏には、乳業における基幹製造技術である加熱殺菌に関して、液状食品に直に通電することで加熱時間を短縮し食品の劣化を抑えかつ十分な殺菌効果が得られるような新しい殺菌技

術についてご紹介いただきました。さらに、編集委員の齊藤氏には、消化吸収など生体利用効率まで含めた新しい食品タンパク質の質的評価指標の解説と、この新たな指標を用いることによる動物性タンパク質の栄養価および環境負荷の程度の見直しについての最新動向の解説をしていただきました。一方、森永乳業基礎研究所の大野氏と清水（肖）氏には、腸内細菌が複雑な機構を介して種々の神経疾患に関わることを示唆した最新の基礎研究と、特定の菌株による認知機能改善作用を実証したヒト臨床試験での研究成果について、その作用機序も含めてご紹介いただきました。

読者の皆様からの寄稿では、日本乳業協会常務理事の滝本氏から HACCP に関して小規模事業者等のための弾力的な措置、運用について昨年11月の改定内容を中心に話題を提供いただきました。乳技協からは、丸田氏による全国集乳路線別生乳成分調査について最近10年間のデータを追加した乳成分変化の推移の update 版と、山口氏による検査技術研修会での参加者からの質問についての Q&A を掲載いたしました。

最後になりましたが、第72巻の発刊にあたり、ご多忙中ご執筆を快くお引受けいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

松田 幹
乳業技術編集委員長
福島大学食農学類教授

ISSN 1341-7878

BULLETIN OF JAPAN DAIRY
TECHNICAL ASSOCIATION

乳業技術 Vol. 72 2022

令和5年6月22日発行

編集兼発行者：公益財団法人日本乳業技術協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1丁目14番19号

TEL 03-3264-1921 FAX 03-3264-1569

E-mail : info@jdta.or.jp http : //www.jdta.or.jp

印刷者：小宮山印刷工業株式会社